

一方歳出面ですが3つのポイントがあげられます。

1つ目は来年1月1日に発足する”糸島市”への準備として電算システムの統合に対する支出です。

前原本庁と志摩、二丈の各支庁その他公共施設をイントラネット^{※1}で結び窓口業務を円滑に処理し、種々の住民サービスに対して支障をきたさないようにするための必要不可欠な施策です。

2つ目が地元経済の活性化策です。

企業城下町として企業からの税金で恩恵を受けた多くの地方自治体は打撃をこうむっていますが、前原市の場合は比較的影響は少ない見込みです。とは言うものの、不況感、不安感は誰しもが感じているのではないでしょう。

対策として前原市は投資的経費を前年度に比べて+34.2%、2.4億増やした（合併関連事業は除く）歳出予算を組みました。生活関連道路の整備、JR波多江駅のエレベーター設置、雷山小学校プール改築、前原東中学校の大規模改築等の公共事業の発注により、景気を下支えすることによりしております。



3つ目は市民力が活かされるまちづくりを実現するための支援策です。

高齢者、障がい者、子ども、女性そして生活者への支援策として多くの事業が実施されます。

効果があがっている生ごみゼロ大作業や妊婦健診の公費負担は拡充して実施されることになってます。

定額給付金とeチケットの発売

国会ではいろいろと論議されました定額給付金事業ですが、もらえるとなるとやはり嬉しいものです。

前原市では基準日の2月1日現在、登録されている外国人も含めて69,654人が給付対象者数で、総額約10億5千万円が支給されます。

皆様のお手元には申請書が既に発送されたと思います。

給付金を受け取るまでには、少々の手間と時間がかかります。

受給者の確認と横行している悪質な詐欺を未然に防ぐための必要な措置です。

受領した申請者に受け取る金融機関の口座番号等を記入し、他の必要書類と一緒に返送すれば4月中には給付が開始される予定になっております。

これに合わせて、前原市商工会では10%のプレミアム付商品券（eチケット）を発売します。1割お得なこのeチケット、市内の多くの店で使用できます。

前原市を元気にする応援も含めて、定額給付金でeチケットの購入をお奨めします。



学力向上を図る伊都塾の開催

九州大学の六本松キャンパスが伊都キャンパスに移動してきました。

学生と教職員を合わせて5,000人を超す大移動です。

これで伊都キャンパスには10,000人を超す人が集うことになったわけです。

今回前原市はこの九州大学の知的資源である学生を前原市内の小、中学校で活用し、市内の児童生徒の基礎的基本的な学力の定着と向上を目的として伊都塾（質問教室）の開催を決定しました。